

# 能登半島地震支援 活動報告ニュースレター

2024/2/20 Vol. 2

## 第2回被災状況・今後の支援に関する説明会

～社会課題解決に向けた共助資本主義の具体的展開として

経済同友会は特定非営利活動法人新公益連盟、一般社団法人インパクトスタートアップ協会と連携し、被災地を支援する企業やソーシャルセクターの結節点としての機能を果たす「能登半島地震支援イニシアティブ」を発足しました。

今回は、オンラインで行われた第2回被災状況・今後の支援に関する説明会の様子についてお伝えします。地震発生直後から被災地で救助活動を行ってきた特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパンの皆様から、ご報告いただきました。

### 橋本 笙子 ピースウィンズ・ジャパン 国内事業部 次長

現在、珠洲市で活動している。高齢化率が約58%と非常に高い自治体である。昨年も地震が発生した地域だ。コロナ禍でしばらく会えなかった人たちが集った元旦に発生した地震であり、被災者からは大きな悲しみの声が聞かれる。現在も断水が続いており、避難所の生活も過酷な状況が続いている。市内で営業している店は3店舗のみである。一般ボランティアを含め、被災地に入ることすら困難な状況だ。道路の状態が悪く、宿泊場所もない。トイレは凝固剤を用いている。災害廃棄物、家屋保全、子どものケアなどの問題が山積している。人材も含めた支援が求められている。



## INDEX

### ■ 2月9日 説明会 登壇者

大西健丞 経済同友会  
共助資本主義の実現委員会  
副委員長  
ピースウィンズ・ジャパン代表理事

橋本 笙子 ピースウィンズ・ジャパン  
国内事業部 次長

稲葉基高 ピースウィンズ・ジャパン  
「空飛ぶ捜索医団 ARROWS」  
プロジェクトリーダー 医師

## 稲葉基高 ピースウィンズ・ジャパン

### 「空飛ぶ捜索医療団 ARROWS」プロジェクトリーダー 医師

発災翌日から被災地の珠洲市に入り支援を開始した。医療、保健、福祉の調整本部を立ち上げ、支援を実施した。市と連携し、保健増進センターの本部長として、団体間のコーディネーションを担った。我々はヘリコプターを準備しており、今回とても役に立った。重傷者2名、中等症5名をヘリコプターで搬送することができた。自衛隊のヘリコプターでは搬送できない患者もいる。我々のヘリコプターとドクターヘリ、自衛隊のヘリコプターで役割を分担し、対応することが出来た。過去の震災から学んだことを活かし、官民で訓練してきた成果である。一方で、局所的ではあるが、困難な状況が長く続くことが懸念される。医療だけでは人を救うことはできない状況だ。もともと人口減少で厳しい状態であった医療の復興を、地域の復興と併せて考えなければならない。



## 大西健丞 経済同友会 共助資本主義の実現委員会 副委員長 (ピースウィンズ・ジャパン 代表理事)

ふるさと納税制度を使って何が出来るか考えてみた。例えば、企業版ふるさと納税や個人版ふるさと納税を用い、経済同友会で能登復興支援基金を作り、その基金から支出する形で NPO 活動や地域活動への支援、人員の派遣が出来るのではないかと。また、ファンドを作り、復興期の支援事業への投資（インベストメント）が出来ると望ましい。例えば、「ケア付き長屋モデル」などを作るのはどうか。既存の医療機関は存続が危ぶまれるが、今後発展が見込まれる医療ツーリズムと紐づけるとよい。すでに引退した競走馬を活用したホースセラピーを行う事業者がおり、我々の事業資金で支援している。社会的投資やソーシャルレンディングで支援できるとよい。これらは一例であるが、今後も発生するとみられる震災を考えると、必要な仕組みである。経済界としても力を貸してほしい。我々は病院船も用意しているが、こうした設備投資についても企業の力を借りたい。経済同友会としての基金を作れば、とれずとも上がるだろう。

